

童

2017年10月3日

お祭り時は、一面田んぼが黄金色の絨毯でしたが、あっという間に稲刈りが進み、パッチワーク状況になってきました。青山家の田んぼも一部ハゼ掛けを復活させましたが、やはり稲刈りの里山の光景には、ハゼ掛けが似合うように感じます。

その田んぼ、今年は子供達が本当に大活躍してくれました。大地開園時は、まだハゼ掛けが主流だったので、よく大地の子供達は連日はハゼ掛けのお手伝いに行ったものです。それが、今年復帰しました。広大な田んぼ一面に刈り取られた稲束。これを集めて運んでくれるだけでも大変助かるし、その繰り返しで本当に小さい力が大きくなっていく実感を味わわせてくれます。まさにアリの実直な地味な作業、勤勉さを表現しています。田んぼ特に秋の田んぼには、子供達の姿が似合いますね。広々とした田んぼに子供達が走り回る光景、まさに里山の豊かさに色を添えてくれます。

これから、秋が進むにつれて、脱穀のわら運び、リンゴ作業、そして、下旬には待望の薪運びが始まります。ネコの手以上に、大人顔負けの子供達の力を発揮、いや、助けを必要とする場面がやってきます。活躍を期待します。



同じく、今年の子供祭り。保護者の皆様も、連日クラフト作業 合唱練習 企画会議、そして、大地の行事とありがとうございます。登山同様、一つ一つ地道に一步一步クリアしながら進んでいく行程ですが、日々の毎日の連続が、大きな成果となりますね。あのイチローも「階段を2,3歩飛び越して登って行くのではなく、毎日一段一段ずつ登ってきた」と言っていますね。子供祭り、紅葉同様、様々な色を取り入れ、ミックスさせながら素晴らしいものにしていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

【怪我の功名になるか 認定こども園】

まさに一步一步の書類のクリアの連続ですが、認定こども園に向かって進んでいることは、先週末に初めて報告させて頂きました。大地は、過去にも、認可幼稚園などへの移行が検討された事もありましたが、そこへの大きな難関は、(大抵、青ちゃんはしつこくどんなことでもクリアするのですが)、実は4m道路(広い公道)に隣接していないことでした。これには、周囲の土地の取得しか道はなく、大地の周囲は皆農家さんがしっかりとリンゴを栽培していたので、これはさすがに無理だと諦めていたのです。

今の大地に入ってくる狭い道路も、今までの結果としては、不審な車や乗用車が入って来なくて静かな環境と安全が保証されてきたので満足してきたのですが、周囲の地主さんの畑に石が入ったりリンゴを傷つけてしまうなどの配慮に気を遣わねばならなかったり、工事や大型物を運び込むときに困難だったりの不便さ、更に、あってほしくない救急車や消防車が入れなかったりする不安もありました。(実は、この狭い道路は、登記簿では、公衆道路として3m位に昭和39年に町所有になっているのですが、地主さんは認めないのが現状です)。昨年末、将来を考えて、現在の裏山(この春取得した土地)の地主さんに、道路分でも良いから売って下さりと頼んだところ、全く相手にもしていただかず、簡単に断られました。この春、この地主さんが農業を続ける事が困難になり、売却先を希望していたところ、昨年この話を覚えていて下さり、幸運にも大地にその話を持ってきて下さったのです。その瞬間、脳裏によぎったのは、広い公道とつながる、現在の狭い道路の気苦労(周囲への配慮)から開放される という事だけでした。

大地開墾作業建設から25年、本当は登記簿的に広い公道でありながら、昔気質の地主さんの考えで気苦労してきた現実から、ようやく開放されるという安堵感は、本当に嬉しいことでした。まさに徳川家康だった気分です。今となっては、この地主さんへの思いも何もありませんし、それ以上に私たちは希望があります。

今のひまわり道路は、広いのでマイクロバスも大型ダンプも乗用車も大手を振って入ることが出来るので、どんな工事でも大型物も搬入することが出来ます。子供達の静かで安全な環境、そして、毎朝あの狭いリンゴ並木を歩いて入ってくる素晴らしさ(季節の移ろいをリンゴの木々の光景から感じる)が最優先で、ひまわり道路を常用することは今後ありませんが、認可や手続き上や書類上の問題では、きっと効果を発揮すると考えていました。

その時に、浮かんだのは、以前認可幼稚園になるには、どんな条件が必要かでした。でもあくまでも、大地は、以前同様、行政に左右されない(補助金紐付き)本当に子供達のための自由奔放なひらめきとときめきを大切にしたい、でもしっかりとベースが出来ている施設として集う人たちが楽しんでやっていたいので、その保証のもとであったらいいと考えていました。そして、浮かんだのが、現在挑戦中の、地域裁量型認定こども園です。この制度や内容や形態は、ここでは紹介しませんが、これだったら大丈夫か というベースには、公道に繋がっている というこの土地の取得があったからです。

認定こども園は、もちろん他の認可保育園や幼稚園同様、国や県 市町村が認めるものなので、申請には、膨大な書類が必要になります。こう見えても、青ちゃんは実はこれらの書類を一つ一つクリアしながら作っていくのが好きなのです。山登りと同じで、一步一步クリアして積み上げていく事。難しい書類や困難な現状があっても、直接行政の窓口や知人友人、はたまた内閣府などにも直接電話して聞いたり、しつこく何度も問い合わせて、相手に熱意をわかってもらったりする繰り返しで、何とかなる、何とかすると確信しているのです。法務局 保健所 県庁 役場などからの指導や改善点や確認点なども、今まで何でも自分でやってきたので、相手も驚くほどのスピードで改善して書類などもクリア出来ていき楽しいものです。困ってもどういふ訳か、救世主に巡り会うのです。これは、運があるかも と思って進んでいるのですが、次また次に難関が現れるのが現状です。が、子供達のために間違いのないことをしている、未来のためにやっているという自分の中に確信しているのです、必ず何とかかなる と思って進んでいます。

タイトルの 「怪我の功名になるか 認定こども園」 についてですが、先の裏山の土地の契約日が、長男夫婦の野沢温泉の今の自宅の売買契約のそれと一緒にしたのは、以前お話しした偶然です。

更に、もう一つ偶然性があったのです。それは、ご存じのように、4年前に起こした長崎自転車転落事故による顔面の怪我。不注意だった青ちゃんの責任と道路の不整備だった市のそれとの示談交渉で、ある程度の示談金が支払われる事になりました。その金額と振り込み日が、裏山の土地の金額(農地と山林原野だから格安)とが、その契約日と同じだったのです。だから、この土地の取得は、あの怪我のお陰だと言うことでしょうか。

そうすると、認定こども園も、この土地があるからやる気になった。この土地は、怪我があったから買えた。となるのです。まだ、認定こども園までの道のりは、7合目付近でしょうか。本当に、怪我の功名になるのは、まだちょっと先かも知れません。

そして、わずかな希望。認定と同時に、今のしびれや腔内の後遺症が薄らぐことを祈り願う青ちゃんです。